

# 等 工 場 の 作 業

證をされた事を成り得ます、然るに我が國の工場主は産業の事も我々の事もかたりみず、忙しむる時は、間に合せの徒弟を、養成して一時に金を儲けて廃棄しよとして居るのです。

不景氣になれば、すぐばらばらではありませんか、故に徒弟は、我々職工が、制限して、養成せぬ。

又其の反面に、一方に於ては我々職工の、正しい要求を壓迫し、我々職工手間賃も低落するのであります。前述べた様に我々も、實力ある、結構な職工に従事しながら、資本主義的の制度に絶えず生活の不安を感じ十日も、病氣になれば、其の日が唯何の爲めにはありませんか。今日迄の、状態は大略述べました様であります、天は自ら助くるものを助くとも云ふ事に就いて善く考て自分分は、自分分を考ねればなりません。

## 如何にせば今より安心が出来るか

それは、我々組合員各自の資本で、工場を作る事であり、之が組合員間の目的です、教育購買救済も必要資金の紛争の際も組合は活動せなければなりません、結局は我々の労働工場を建設して奴隷の鎖から脱れ皆んな楽しく働くことです、資金の紛争は、水の上に字を書くと同じ事で、景氣の善い時には値上げ、不景氣の時には値下げられ紛争ある事に我々は大少の損害を蒙らなければなりません、我々の工場を建設しましたならば、労資間の状態も明るく一般の資金の制度も、平和に組合が協力が出来たら自然労資間も調和に行きます我々が一回資金の紛争があらましても四日五日を費すとしたれば、之が組合員全般に渡るときには、其の損害は八十倍の重大な建設されるので、以上の理由で茲に日本美術友禪工組合株式を設立し協力を相成り出来たのであります、株は可成組合員名簿記入者に平等に持たせ持てな、組合員に持てる様なる方法を講じて記名株にして決して賣買の出来ぬ様定款に規定し何事にも株主なる組合員一同の協議の上賛成を得て事業いたすのでありますから其の意を諒察されまして、一同熱烈な努力奮闘されまして御贊助あらん事を願ひます、次會に資本金の上發起人を開會いたします發起人は各工場より一名選出の程を願ひます。

大正十年一月拾五日

## 各工場代表者役員一同

## 組合員御中

## 起業目論書

一、資本金 五萬圓

11.7.20

大正十一年七月二十日

大阪府

日本及禪工組合幹部共同出資反禪工場設立計画之件

右記組合の運営及日本及禪株式会社成績良好なるを職工組合幹部等数人、金貳万円共同出資し、府下西成市北中島村三國に新工場を建設し、敷地を借入し、組長方法を決定せしむ。

然るに従来日本及禪株式会社は、今般役員株主及び二週

公事移居を植田博光、今般役員株主及び二週

三四五日(二)の内依し、今般役員株主及び二週

刷新するに、今般役員株主及び二週

刷新するに、今般役員株主及び二週

一、金壹萬貳千貳百四拾圓	但拾五枚物(七圓五拾錢トス)
一、金貳千九百七拾八圓四拾錢	但シ一斗平均(六圓)
一、金貳百〇四圓(一仕掛一斗、平均)	但シ一斗平均(六圓)

説明  
糊粉糯米七分餅粉三分八斗入りノカマメ七斗五升トシテ  
目下 餅粉十八圓 一斗、格壹圓四拾六錢  
一、金七百九拾九圓 一斗、ル 水本代  
一、金貳百貳拾九圓五拾錢 一斗、ル 水本代  
一切二錢七厘  
形ホリ代 但シ百柄  
形紙代三千枚 壹枚貳拾貳錢  
模標圖案代  
シブ ニガリ  
形ホリ代 一枚五錢平均  
石炭八萬斤  
糊粉雜役 三人貳拾圓 一人參拾五圓トシテ  
店員月給 但シ染料合ト配色師百圓  
店員五十圓、問屋行七十圓女中二十圓  
形場ト見本 マカナイ費  
全部ノ版代  
臘工二ヶ月休業中ノ手當 一人一日壹圓  
同業組合費  
板直シ大工手間賃  
金壹百圓  
金壹百圓  
金壹百圓  
金壹千〇五圓  
金四百八拾圓  
金壹千圓  
金九拾陸圓六拾錢  
金壹百圓 水カンばり  
合 計金四萬七千七拾五圓五拾錢

純 利 益  
金六千壹百七拾四圓五拾錢 利益六割五分

既記は見積りですから参考迄に記したのです諸君一同に研究を願ひます